

安全な取り扱い方

取り扱い上の注意

1. 運搬、仕込み作業において
 - ・日光、雨を避けるための覆いをする。
 - ・不用意な衝撃、摩擦は避ける。
 - ・熱源に容器が接触しない様にする。
2. 有機過酸化物の小分けについて
 - ・ポリエチレン、ステンレス、ガラス製の容器、器具を使用する。
 - ・小分けしたものは内容物が明確になるようにラベルを貼る。
 - ・異物、薬品類の付着していない容器を使用する。
3. 使用時について
 - ・有機過酸化物の分解を促進する薬品等使用して樹脂硬化等する場合、有機過酸化物と促進剤を直接混合することは絶対に避け、各々別々に樹脂モノマーに混合するか、いずれか一方を樹脂、モノマーに混合した後他方に加える。使用場所では火気は勿論、高温を発生する機器等は使用しない。
 - ・一般試薬と混合する場合は予め少量試験を行い、安全性を確認する。
4. 残液について
 - ・一度取り出したものは全量使いきる様にし、決して元の容器に戻さない様にする。
 - ・残液は廃棄方法に従い処分する。
 - ・水洗し、水を入れ、栓を緩めて保管した後産業廃棄物処理をする。
5. 床にこぼした場合
 - ・少量の場合、ウエス、布等で拭き取り水を入れた専用ゴミバケツに入れ焼却処分する。
 - ・多量の場合、直ちに水で流し、一時溜めで分離後処分する。

貯蔵上の注意

- ・個々に適した貯蔵温度で保管する。
- ・直射日光を受けないようにする。
- ・倉庫内は火気厳禁。
- ・転倒、転落防止措置を施す。
- ・横置き、逆置きは厳禁。
- ・貯蔵場所には防爆型電気機器を使用する。
- ・低温倉庫は外部から温度監視出来る様にする。
- ・他の薬品（酸・アルカリ・還元剤）と同じ場所に置かない。
- ・地震や何かのショックで容器が破損した場合、有機過酸化物が混合して分解する様な薬品を近くには置かない。
- ・先入れ先出しを厳守。
- ・保冷品は専用の冷蔵（冷凍）庫に貯蔵する。
- ・冷凍庫内で容器を壁に接触させない。
- ・冷凍庫内の各容器は多少の間隔を開けて冷気の循環を良くする。
- ・保冷品の搬入は速やかに行う。
- ・冷凍機は定期的に点検整備する。

お問い合わせは、peroxide@nof.co.jp までお願いします。

衛生上の注意

- ・ 使用時は保護具（手袋、眼鏡等、粉体の場合防塵マスク）を着用する。
- ・ 皮膚に付着した場合石鹼で十分洗い落とした後、異常があれば医師の診察を受ける。
- ・ 有機過酸化化物の中でヒドロパーオキサイド類は刺激が強く、皮膚に付着した場合早急に洗い落とす必要がある。
- ・ 目に入った場合直ちに水で十分に洗眼し、眼科医の診断を受ける。
- ・ 誤飲した場合、下記の通り意識がある場合と意識がない場合とでは応急処置法が異なるので注意が必要となる。

（意識がある場合）

ただちに口をすすいだ後コップ1～2杯の水もしくは牛乳を飲ませ、早急に医師の治療を受ける。

（意識がない場合もしくは痙攣・ひきつけを起こした場合）

この場合は絶対に飲ませたり吐かせたりせず、まず呼吸しているかどうかを調べ、頭を後ろに反らして気道を確保し、体を左側が下になるよう横向きに寝かせ、直ちに医師の治療を受ける。

- ・ ガスを吸引した場合直ちに新鮮な空気のところへ移動させ、咳や呼吸困難等の症状があれば、保温して早急に医師の診察を受ける。

消火方法

- ・ 初期火災の場合は泡消火器を用いて安全な場所から消火後、放水冷却する。また、水だけの消火は出来ないことが多いので注意する。
- ・ 本格火災の場合は爆発の危険性があるので、絶対に近寄らず安全な距離を保って大量の放水により類焼を防ぐ。

廃棄方法

1. 焼却

希釈剤（灯油等の可燃性液体）を有機過酸化化物に対して4倍量混合し、焼却機等で少量ずつ焼却する。尚、焼却する際は他の廃棄物（特にモノマーや過酸化物の分解を促進する様な物質）と混合すると急激な分解燃焼を起こす場合があるので混合しない。

2. 生分解

生分解性のPOは活性汚泥排水処理設備にて、生分解処理できる。

3. アルカリ分解

活性剤を含む10倍量以上のアルカリ水溶液に攪拌しながら徐々に添加後、一定時間攪拌し分解させる。分解生成物は焼却又は活性汚泥処理する。

4. 硬化

硬化剤として使用されているパーメック[®]類は促進剤混入樹脂に混合する事で分解硬化させ廃棄する事が出来る。安全に硬化処理するためには以下の項目を守る必要がある。

- ・ 金属製の容器を必ず用いる
- ・ 水まで入れた状態で容積が1/2以下になるようにする
- ・ 1回で処理する硬化剤は最大1Kgまでとする・不飽和ポリエステル樹脂に対する硬化剤の割合は外割で最大20パーセントまでとする
- ・ 不飽和ポリエステル樹脂と硬化剤は30秒程度攪拌する
- ・ 不飽和ポリエステル樹脂と硬化剤を混合後に、早急に樹脂量と等量以上の水を投入する
- ・ 硬化時の臭気を吸引しない為、風上から見守る
- ・ 硬化中の不飽和ポリエステル樹脂の温度は20～30分程度で最高温度となるので、その間は監視が必要である
- ・ 完全に不飽和ポリエステル樹脂が冷却されるまで待ち、硬化した樹脂は産業廃棄物として処分する

お問い合わせは、peroxide@nof.co.jp までお願いします。